

OH! REC.

Vol.2
2005.12.15

小郡市人権センター通信

お待たせしました!

本年4月にここ、「小郡市人権教育啓発センター」(略称・人権センター)がオープンし、早や半年以上たちました。

この間、多くの方々にご利用いただけてきましたが、情報室と展示室は資料整理のため、公開できない状態が続いていました。このたびようやく整理が終了し、全館利用が可能となりました。

今回は、この情報室と展示室の紹介をします。

情報室

ここには人権関係の知識や学習を深める図書やビデオなどがあります。また、インターネットに接続しているパソコンもあり、文字通り人権に関する情報収集を目的とした部屋です。図書は新規購入のものもありますが、市立図書館、個人有志の方から譲っていただいたものも多数あります。



また、一般公開はしていませんが、小郡市の部落史に関する古文書や、筑後地区の「同和」教育を推進してきた先駆者である、故・田中久典さんの個人的な資料なども所蔵しており、専門的な調査や研究に活用できるようになっています。

展示室

この部屋は人権関係の様々な資料や写真、絵図、パネル等を展示しており、具体的な物を目にしたり触れたりすることによって人権問題に対する興味や関心を深めていただくことを目的としています。

また特別展示コーナーは、部落差別をはじめあらゆる人権問題の解決に向けた長年の功績により名誉市民となった、故・上杉佐一郎さんの書斎を再現したものとなっています。ここには、上杉さんの蔵書や写真などを展示しており、上杉さんの人権問題解決への思いを感じていただけたらと思います。

なお、展示については定期的に入れ替えを行っていく予定です。

(文・有田)



六曜(曜)と私たちの暮らし

— 人権センターへの問い合わせから考える —

「今朝の朝刊にこんな記事が載っていた。おかしいと思うけれど。」という問い合わせがありました。新聞記事は次のようなものでした。



新聞記事にあるように、六曜（六曜）には本当に意味があるのでしょうか。

六曜の歴史としくみ

六曜の歴史は小六壬と言われる中国の迷信が鎌倉時代末期から室町時代初期に日本に伝わったのがもとのようですが、当時日常生活で使われることはほとんどありませんでした。幕末から明治にかけて世情が不安になってきた頃から使われだし、第二次世界大戦後から盛んに使われるようになりました。

六曜は複雑な組み合わせでできているように見えますが、実は単なる先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口の繰り返しです。ただし、1・7月は先勝、2・8月は友引、3・9月は先負、4・10月は仏滅、5・11月は大安、6・12月は赤口からそれぞれ始まるということと、今はあまり使われていない旧暦（太陰暦）の月日にこれらを当てはめるという決まりがあります。そのため、現在の新暦（太陽暦）に直すと不規則な現れ方になり、いかにも意味があるかのような神秘的な感じに見えてしまいます。しかしたとえば、月曜日の午前は良いが午後は悪い、土曜日は一日中悪い日だと曜日に吉凶をつけるのと同じことで、まったく根拠のない迷信に過ぎません。

六曜と私たちの暮らし

私たちは日ごろ六曜を意識することはあまりありません。また人の幸不幸が日にちで決まるわけではないこともわかっています。しかしいざ自分に直接関係する結婚式や葬式などに直面すると「理屈ではわかるけれども、どうも気持ちでは・・・」とか「昔からみんながしているから」とか言いながら、とたんに日の吉凶を気にしたり、こだわったりしてはいないでしょうか。日の良し悪しはその日がもともと持っているものではなく、人によって変わり、異なるものです。残念ながら大安の日に結婚した夫婦のすべてがうまくいっているわけではないことが、このことを端的にあらわしています。

日ごろは意識せず、また理屈ではわかっているが、いざとなると「理屈では」とか「昔からみんなが」になる私たちの意識と行動はそのまま差別の場合にも当てはまり、差別を温存させることにつながっています。

(文：古賀)

読書ノート

岸見一郎 著 『アドラー心理学入門
よりよい人間関係のために』



1999年 KKベストセラーズ ワニのNEW新書

「なんで部落差別を無くす話ばかりするんですか？」「僕は自分のことで精一杯なのに！」。ある学習会で、口にはしなかった心のつぶやき。

どうしてあの場で発言しなかったのだろう？
発言したら差別者と糾弾されるから？
黙ってやり過ごせば関係なくなるから？

他方で、差別されることのつらさは分かる自分がある。自分の幸せと部落差別を受けている人たちの幸せが一緒にやってくるのが理想だと分かっている自分がある。

“他人が受ける差別は自分には関係ないから…”
“せめて自分だけは…”とその場をやり過ごそうとしたのは理想の半分を捨てることではなかったか。それは自分を大切にしないことではなかったか。

「自分のことで精一杯」と言えば怒られるかもしれない、と思うのは、居合わせた人たちを最初から信じようとしていなかったからではないか。

「自分もくるしいけど、一緒に幸せになりたい」と言っていれば、自分も同和地区の人も元気が出たのではないか。

今回紹介する本が、教えてくれたことです。差別という言葉も人権という言葉も出てこない本です。だけど“他人が受ける差別は自分には関係ない”と思ったことのある自分だからこそ、他人が受ける差別を無くすことに役に立てるかもしれない、という気持ちにさせてくれる本です。

キーワードは、自己受容と他者信頼、他者貢献の3点セット。

是非ご一読ください。

(文:羽江)



一コマ 人権のまちづくり

仕事帰り、混み合う列車のなか。僕はたまたま座ることが出来ました。幾つかめの駅を下車したところで、後ろの方から

「皆さんにお願いがあります。」とおじさんの声、何だ何だ？

「車内放送でも言っているとおり、優先座席の付近では携帯電話の電源を切ってください。」

わざわざ繰り返すこともないだろう・・・と思うまもなく

「私もペースメーカーをつけています。よろしくをお願いします」

アチャーッ！そう思ったのは僕だけではないようで、あわてて電源を切る人がちらほら。

毎日何度となく聞いている車内放送の「お

願い」を無視してきた僕。この世の中にペースメーカーをつけている人がいないことにしてきた僕。それって差別じゃん！と気づいた瞬間。同時に、「お願いがあります」と声を発したおじさんの勇気に感謝と感動。

謝らなきゃ！お礼をいわなけりゃ！どうしよう、おじさん先に降りないで！と思っていると、運良く降りる駅が一緒になりました。「言ってもらって良かったです。すみませんでした。」と伝えると、幸いおじさんは笑顔で応じてくれました。

「人権のまち」ってこんなことを繰り返すことで出来ていくのでしょうか。皆さんは普段どんな取り組みをしていますか？

(文:羽江)

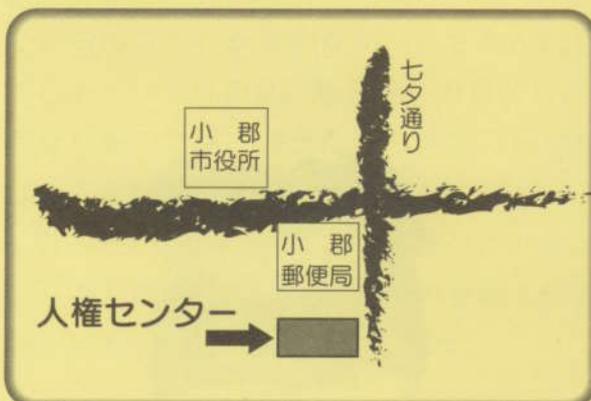
～お願いとお知らせ～

これまで健康センターで行っていた健診など健康に関わる行事や相談は、新しくオープンした“あすてらす”（二森1167-1TEL72-6666）で行っております。

お間違えのないようご注意ください。

人権問題の学習会や講演会に人権センターをご利用ください。

部屋の貸し出しを行っています。詳しくは、電話または直接職員にお尋ねください。



小郡市人権教育啓発センター

所在地：〒838-0141 小郡市小郡296

でんわ&Fax：0942-80-1080（直通）

E-mail：oh-rec@iwk.bbiq.jp